

# 株式会社 ニッキ

## 2016年3月期第2四半期 決算説明会資料



～ガス燃料供給システムで環境へ貢献～

2015年11月20日

(証券コード6042・東証2部)

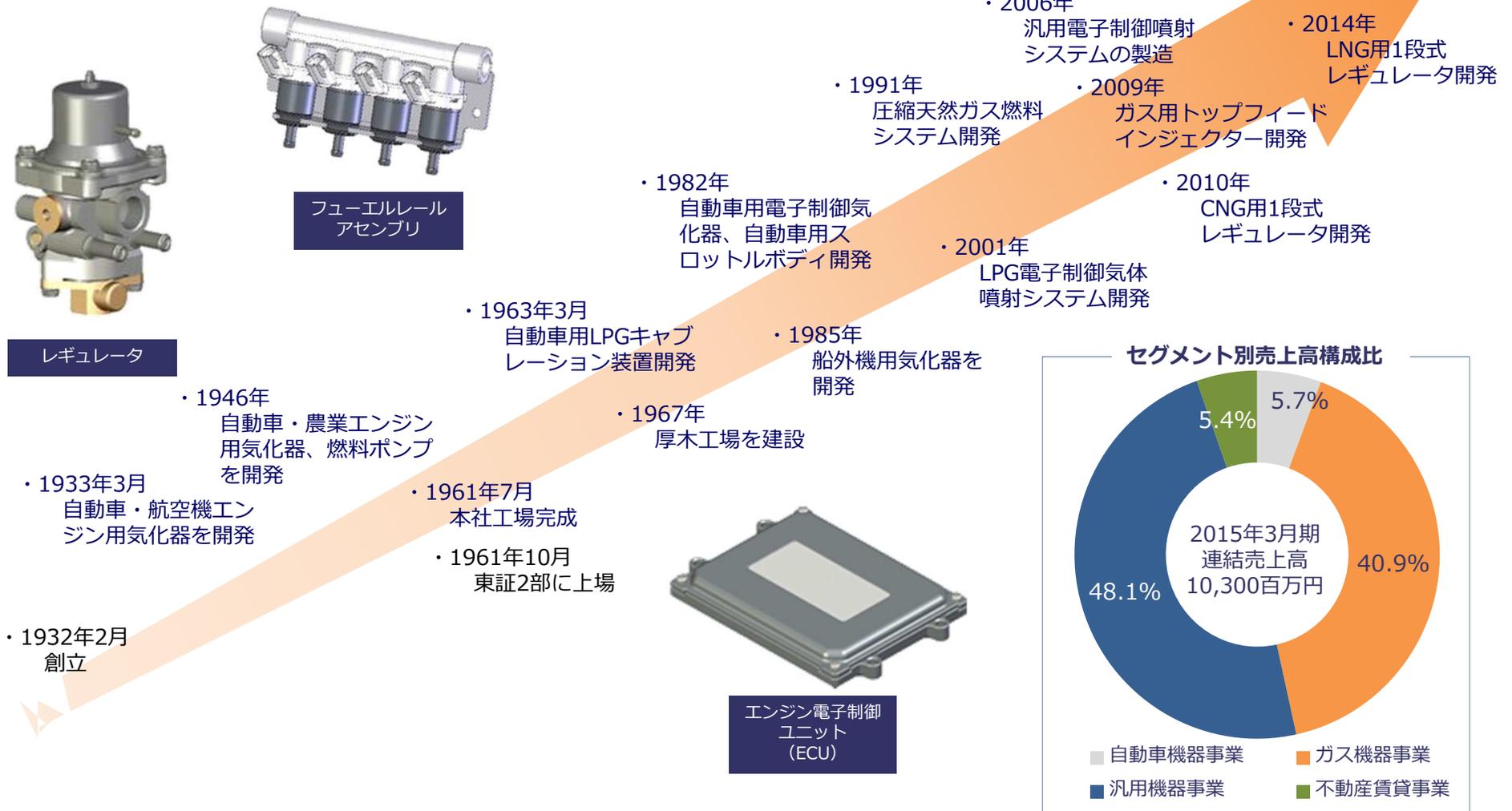
1. 会社概要
2. 2016年3月期第2四半期決算の概要
3. 2016年3月期見通しと中期経営計画
4. 参考資料

- 
1. 会社概要
  2. 2016年3月期第2四半期決算の概要
  3. 2016年3月期見通しと中期経営計画
  4. 参考資料

## 「ガス燃料供給システムで環境へ貢献」

商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	637名（連結ベース、2015年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ LPG・CNG・LNG燃料供給システムの設計・開発及び関連機器の製造</li><li>■ 自動車用燃料関連デバイスの設計・開発及び製造</li><li>■ 自動車エンジン用気化器の製造</li><li>■ 船舶・小型エンジン用気化器及び燃料関連デバイスの設計・開発及び製造</li></ul>
関係会社	<ul style="list-style-type: none"><li>■ NIKKI AMERICA FUEL SYSTEMS,LLC、NIKKI AMERICA,INC.</li><li>■ 瀋陽日新気化器有限公司</li><li>■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED、</li><li>■ NIKKI KOREA CO.,LTD.、NIKKI(THAILAND) CO.,LTD.</li><li>■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株)</li></ul>

## 伝統から革新へ

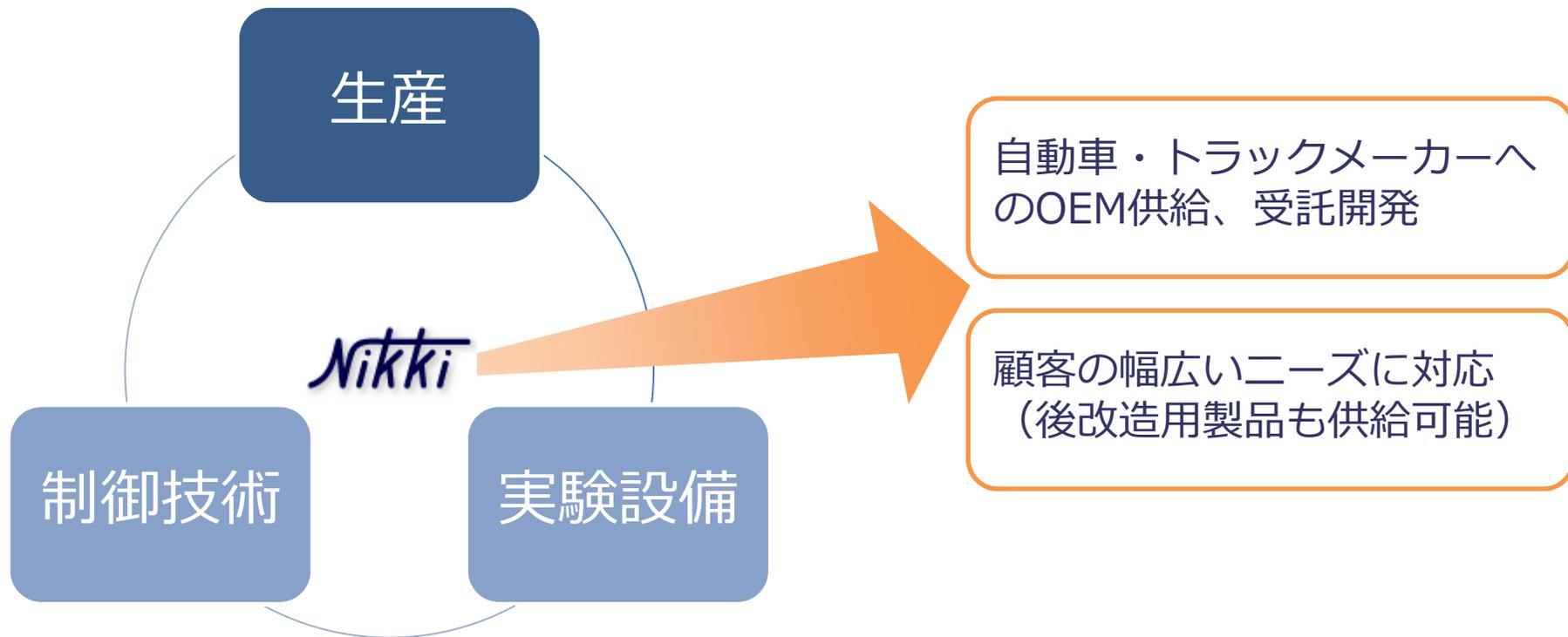


# 事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	不動産賃貸事業
生産拠点	日本、中国、タイ	米国、中国、インド、日本	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東京都品川区にオフィスビルを所有</li> </ul>
市場	東南アジアや東アジアへの輸出が中心	米国向けが多く、芝刈り機・発電機用が約7割を占める	東南アジア、中東への輸出	
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内外のLPG・CNG車・フォークリフト向けの燃料供給システム（ECU、インjekター、ベーパーライザ、レギュレータ、熱交換器、フィルター、ミキサ等）</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 汎用気化器（農業用、産業用）、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム等</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内外のガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安定収益</li> </ul>
主要顧客	GM Korea、いすゞ自動車、日野自動車、広西玉柴機器、日産工場	Briggs & Stratton Corporation、Kohler Company、川崎重工、富士重工、ヤマハマリーン	日産自動車、トヨタ自動車、マツダ	

## 当社の強み（1）

- ガス機器の燃料供給システムを構成する主要部品を全て製造可能
- 高出力・高精度性、燃費向上・排ガスクリーン化を実現する高い制御技術
- 様々な実験にも対応可能な最新鋭の実験設備



# 当社の強み（2）

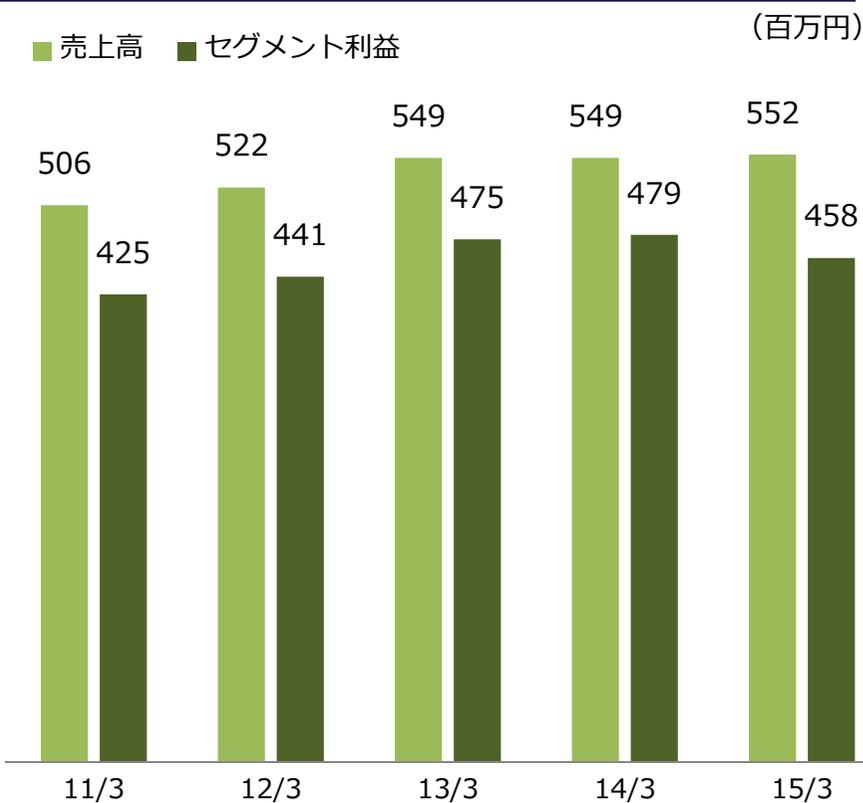
## ■ 保有不動産からの安定収益

### 保有資産の概要

名称	3号館ビル
所在	東京都品川区北品川5-11-3
土地面積	4,959.08㎡（うち62.0%）
建物構造	鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根地下2階付8階建
建物延床面積	20,582.71㎡（うち62.0%）
竣工年月	1996年10月



### 不動産賃貸事業推移



- 
1. 会社概要
  2. 2016年3月期第2四半期決算の概要
  3. 2016年3月期見通しと中期経営計画
  4. 参考資料

## 2016年3月期第2四半期(累計) 連結損益の概況

【前年同期比】：タイ市場の景気低迷、不採算取引の縮小等により減収となるも  
ガス機器事業、汎用機器事業の採算性向上により増益

【計画比】：タイ市場の回復の遅れ、中国の一部販売先の立ち上がりの遅れが影響

(単位：百万円、下段は構成比)

	2015年3月期 第2四半期累計	2016年3月期第2四半期累計			
		実績	前年同期比	計画	計画比
売上高	5,015 (100.0%)	4,515 (100.0%)	▲10.0%	4,900 (100.0%)	▲7.8%
売上総利益	1,122 (22.4%)	1,294 (28.7%)	+15.4%	—	—
販管費	726 (14.5%)	799 (17.7%)	+10.0%	—	—
営業利益	395 (7.9%)	495 (11.0%)	+25.4%	370 (7.6%)	+34.0%
経常利益	469 (9.4%)	495 (11.0%)	+5.6%	350 (7.1%)	+41.7%
四半期純利益	327 (6.5%)	312 (6.9%)	▲4.8%	250 (5.1%)	+24.8%

## 2016年3月期第2四半期(累計) セグメント別の概況

ガス機器事業はタイ市場の回復の遅れ等により減収となるも、受託開発売上割合の増加等により、増益となった

汎用機器事業は不採算取引の縮小等により減収となったものの大幅増益となった

(単位：百万円)

	外部売上高			セグメント利益		
	2015年3月期 第2四半期累計	2016年3月期 第2四半期累計	前年同期比	2015年3月期 第2四半期累計	2016年3月期 第2四半期累計	前年同期比
ガス機器事業	2,205	2,058	▲6.7%	124	200	+60.6%
汎用機器事業	2,142	1,904	▲11.1%	0	73	-
自動車機器事業	392	276	▲29.5%	40	▲5	-
不動産賃貸事業	275	276	+0.6%	229	227	▲1.0%
調整等	-	-	-	-	-	-
合計	5,015	4,515	▲10.0%	395	495	+25.4%

(注) 当第2四半期連結会計期間より連結修正金額の配賦基準を変更。前第2四半期連結累計実績も変更後の配賦基準で作成

## 2016年3月期第2四半期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2015年3月期末	2016年3月期第2四半期末		
				前期比増減額	主な増減要因
資産	流動資産	6,088 (44.1%)	6,396 (46.6%)	+ 307	<b>【流動資産】</b> 現金及び預金 + 364 仮払消費税 + 224 受取手形及び売掛金 ▲293 <b>【固定資産】</b> 投資有価証券 ▲275 有形固定資産 ▲94
	固定資産	7,718 (55.9%)	7,329 (53.4%)	▲389	
	資産合計	13,807 (100.0%)	13,725 (100.0%)	▲82	
負債	流動負債	4,822 (34.9%)	4,664 (34.0%)	▲157	<b>【流動負債】</b> 支払手形及び買掛金 ▲183 未払法人税等 ▲94 仮受消費税 + 237 <b>【固定負債】</b> 長期リース債務 ▲47 長期借入金 ▲44
	固定負債	2,756 (20.0%)	2,584 (18.8%)	▲172	
	負債合計	7,578 (54.9%)	7,248 (52.8%)	▲330	
	純資産合計	6,228 (45.1%)	6,476 (47.2%)	+ 247	
負債・純資産合計		13,807 (100.0%)	13,725 (100.0%)	▲82	利益剰余金 + 228
ネット有利子負債		674 (4.9%)	269 (2.0%)	▲404	

※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

# 2016年3月期第2四半期(累計) 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

	2015年3月期 第2四半期累計	2016年3月期第2四半期累計	
			主要内容
営業キャッシュフロー	428	714	税金等調整前四半期純利益 +498 減価償却費 +401 法人税等の支払額 ▲189
投資キャッシュフロー	▲594	▲347	有形固定資産の取得による支出 ▲287
フリー・キャッシュフロー	▲166	366	
財務キャッシュフロー	▲55	▲191	
換算差額等	1	134	タイ子会社の新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加 +133
現金及び現金同等物の期末残高	1,665	2,131	
設備投資額	633	221	
減価償却費	370	401	

### 【事業環境】

- タイ市場の回復の遅れが期初想定以上に長期化
- 中国の景気減速はあるものの、当社の主要ターゲットである公共交通向けバスのガス機器に与える影響は軽微
- 高水準で推移する米国住宅着工件数を受け、米国の汎用機器マーケットは堅調



### 【当社の対応施策】

- 市場環境が相対的に良い米国の営業活動を強化
- 東南アジアは市場ニーズに合致した後改造用CNGキットの開発・投入
- 日本においては最新の噴射システムを搭載した低公害LPGタクシー車の需要増を狙い、製品を投入

# 地域別テーマ・トピックス

## 米国

### ガス機器事業の本格参入のため地盤作り

- Act Expo 2015 (@Dallas) への初出展 (5月)
- 販売機能であるNIKKI AMERICA INCの体制強化の準備

## 中国

### ガス機器生産ラインの整備

- LNG1段式レギュレータの新規生産ラインの立ち上げ、CNG1段式レギュレータの日本からの生産移管を実施

6月検査完了

8月稼働開始

## 東南アジア

### 市場ニーズに合致したCNG後改造用キットの開発・投入

- 適合ツールのレベルアップ



## 日本

### 最新の噴射システムを搭載した低公害LPGタクシー車の需要増を狙う (日本・香港)

- 当社部品が採用された日産自動車「NV200LPGタクシー」の販売開始 (6月)



- 
1. 会社概要
  2. 2016年3月期第2四半期決算の概要
  3. 2016年3月期見通しと中期経営計画
  4. 参考資料

## 2016年3月期 連結損益の見通し

上期は利益面で計画を上回る進捗だったが、世界経済全体の先行き不透明感が強まっていることから、現時点では通期計画は期初計画を据え置き

(単位：百万円、下段は構成比)

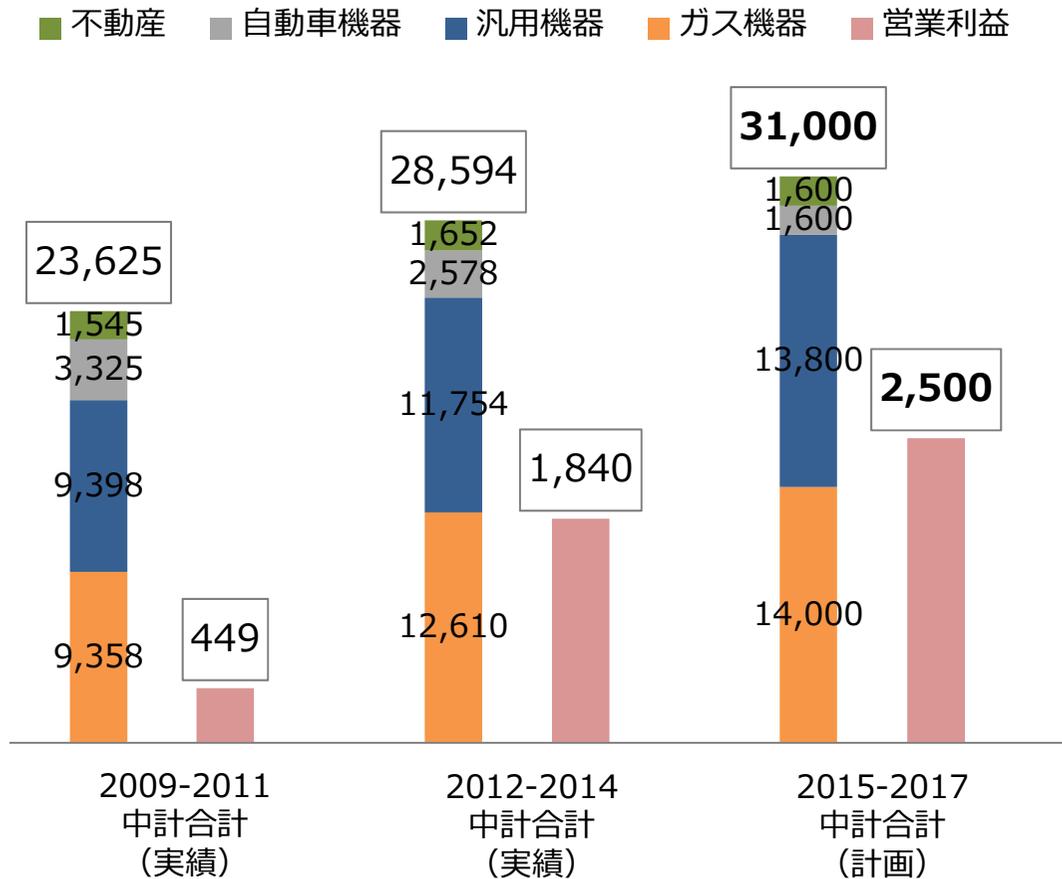
	2015年3月期 実績	2016年3月期計画	
			前期比
売上高	10,300 (100.0%)	9,800 (100.0%)	▲4.9%
営業利益	597 (5.8%)	680 (6.9%)	+13.8%
経常利益	720 (7.0%)	640 (6.5%)	▲11.2%
当期純利益	629 (6.1%)	420 (4.3%)	▲33.2%
設備投資額	883 (8.6%)	570 (5.8%)	▲35.4%
減価償却費	839 (8.2%)	640 (6.5%)	▲23.7%

2016年3月期第2四半期累計	
実績	通期計画に対する 進捗率
4,515 (100.0%)	46.1%
495 (11.0%)	72.8%
495 (11.0%)	77.3%
312 (6.9%)	74.3%

# 新中期経営計画（2015～2017年度）

「持続的な成長の実現」を目指して、増収・増益決算を継続できる  
事業基盤・体制の構築を図る

(単位：百万円)



## <重点方針・施策>

1. 売上規模拡大
2. コスト低減・収益拡大
3. 事業領域・個人領域の拡大

## <計数目標（連結）>

### 3力年合計

売上高	31,000百万円
営業利益	2,500百万円

## 持続的成長に向けた重点施策

---

Point1

開発・実験機能の拡充を行い、上流工程への関与拡大

Point2

ガス機器の米国・欧州・南米への拡販

Point3

新興国向け後改造用廉価製品の開発推進

Point4

グローバルな最適生産体制の追求

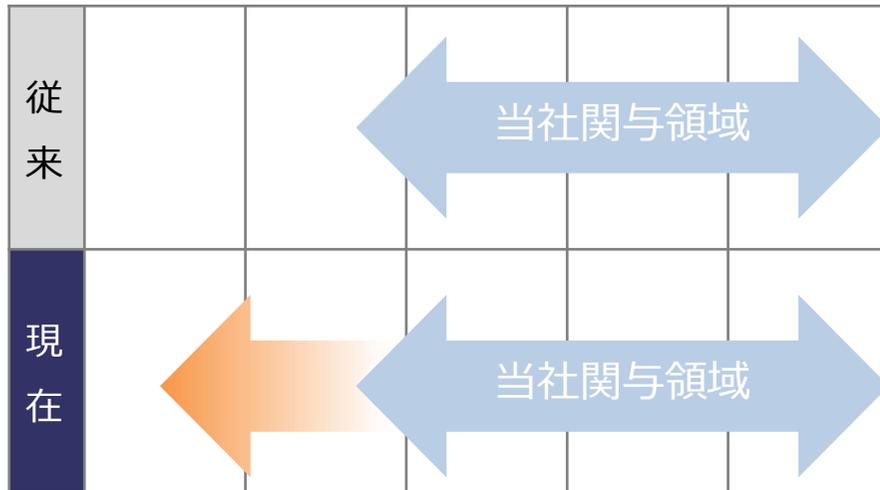
# 持続的成長に向けた重点施策 (1)

## 【ガス機器事業】

- 開発・実験機能の拡充を行い、上流工程への関与を拡大
- ガス機器の北米・欧州・南米への参入

【ガス機器】技術力を生かし、より上流工程へ関与していく

自動車・トラックメーカーの開発工程



【ガス機器】北米・欧州・南米への参入

- 米国子会社NIKKI AMERICA, INC.の機能拡大・体制強化
- 地域や顧客ニーズに応じた最適なアプローチ方法を検討
- Act Expo 2015(@Dallas)への初出展を足がかりに新規顧客の獲得へ

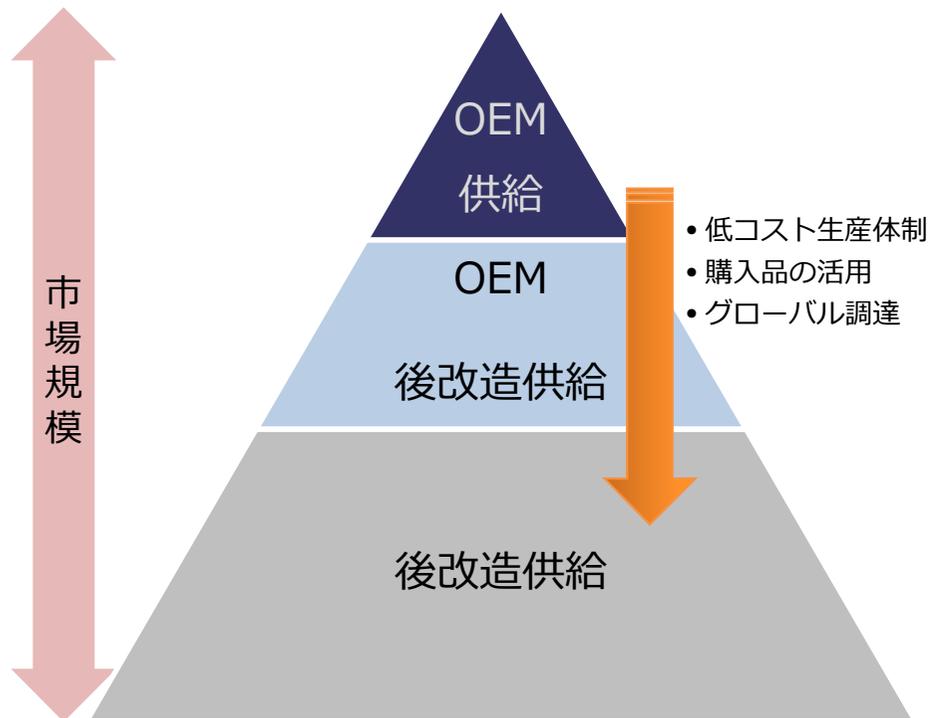


## 持続的成長に向けた重点施策 (2)

### 【ガス機器事業】

- 市場の大きい新興国向けCNG車用廉価製品（後改造供給用）の開発を推進
  - 低コスト生産体制、購入品の活用、グローバル調達によりコストパフォーマンスの極大化

【ガス機器】後改造供給用製品の品ぞろえ拡充



#### OEM供給：

- 自動車メーカーの生産ライン用として製品の販売を行う
- 正規ラインナップとして設定

#### OEM後改造供給：

- 自動車メーカーの監修した改造車用の製品販売を行う
- 正規販売店オプションとして設定

#### 後改造供給：

- 一般修理工場（改造専門業者含）向けの改造車用の製品販売を行う
- 車両はユーザーが持込み改造を施す

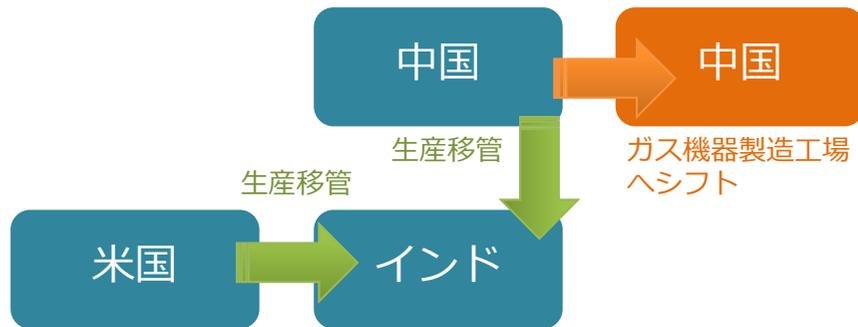
# 持続的成長に向けた重点施策 (3)

## 【汎用機器事業】

- グローバルな最適生産体制の追求
  - － 生産拠点の最適化、協力企業との共同進出

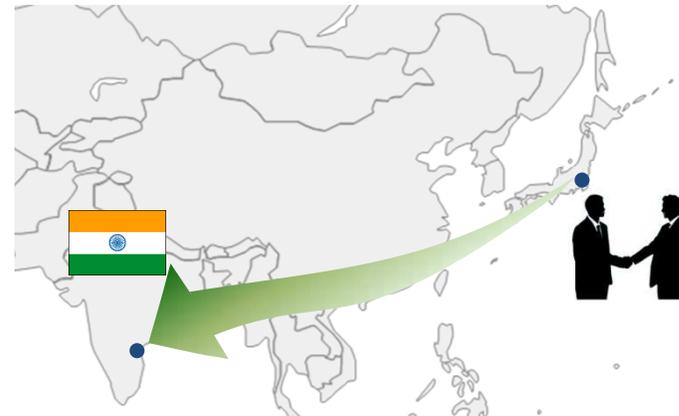
### 【汎用機器】グローバルな最適生産体制

#### ● 生産拠点の最適化



- コスト要件に合致した製造方法の確立
- 加工、組立などプロセスベースの最適化
- ガス機器事業進出への布石

#### ● 協力企業との共同進出



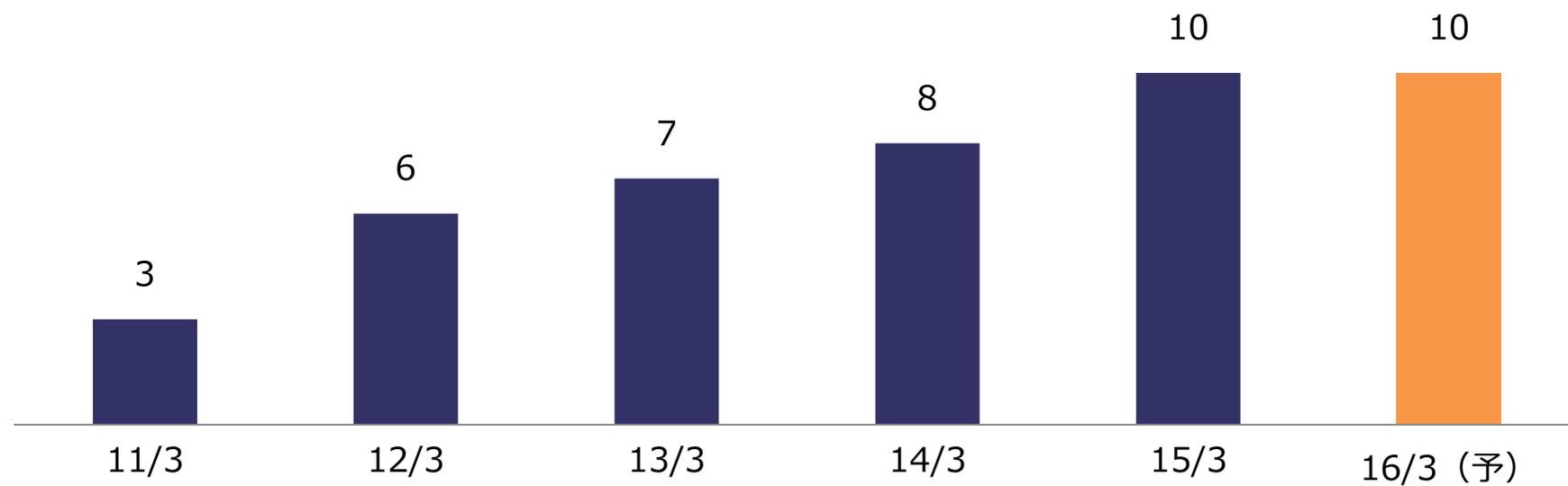
- 収益管理・品質管理の強化
- 現地調達の拡大

# 株主還元方針

安定配当の維持継続を基本とし、2016年3月期は10円を計画

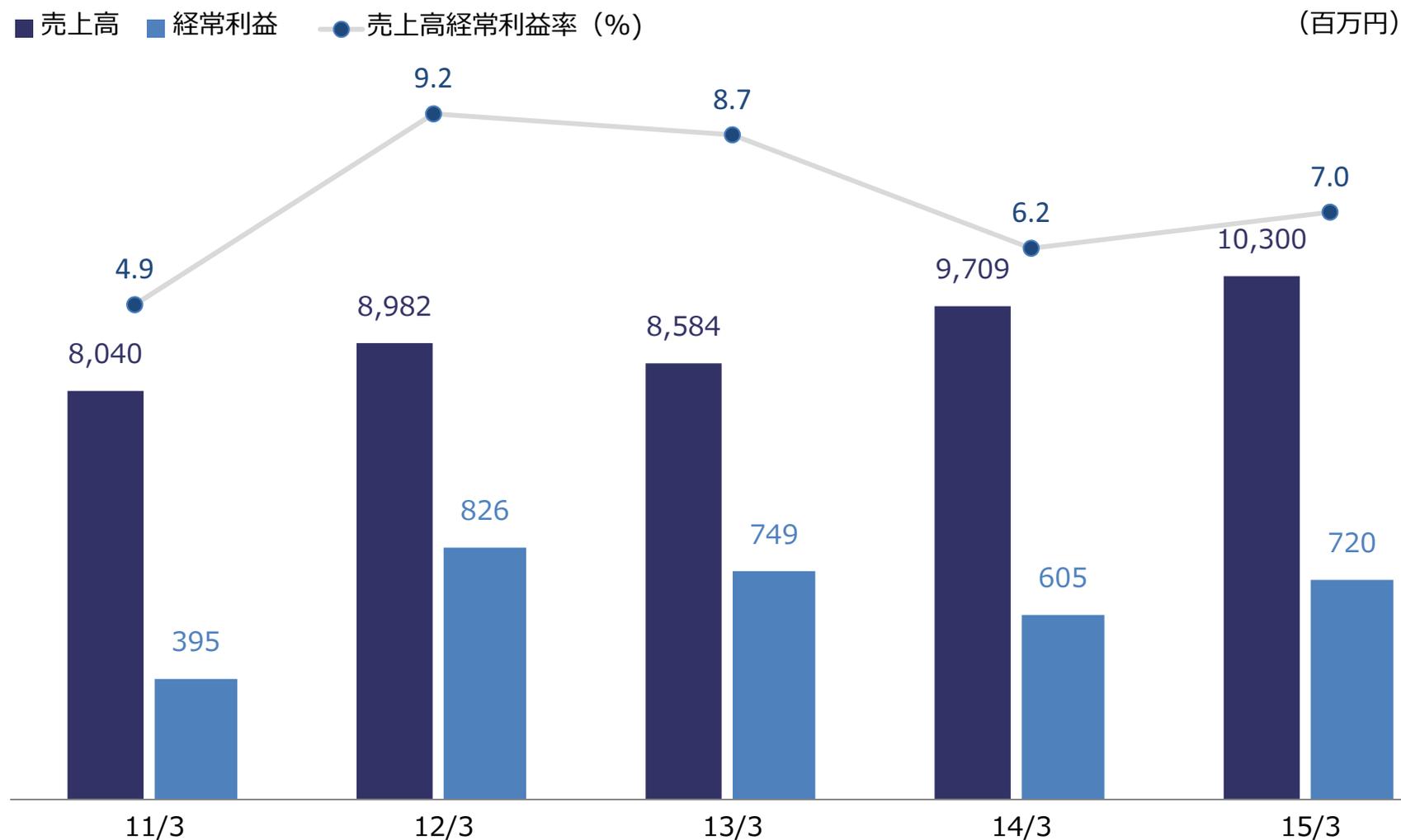
1株当たり配当金推移

(単位：円)

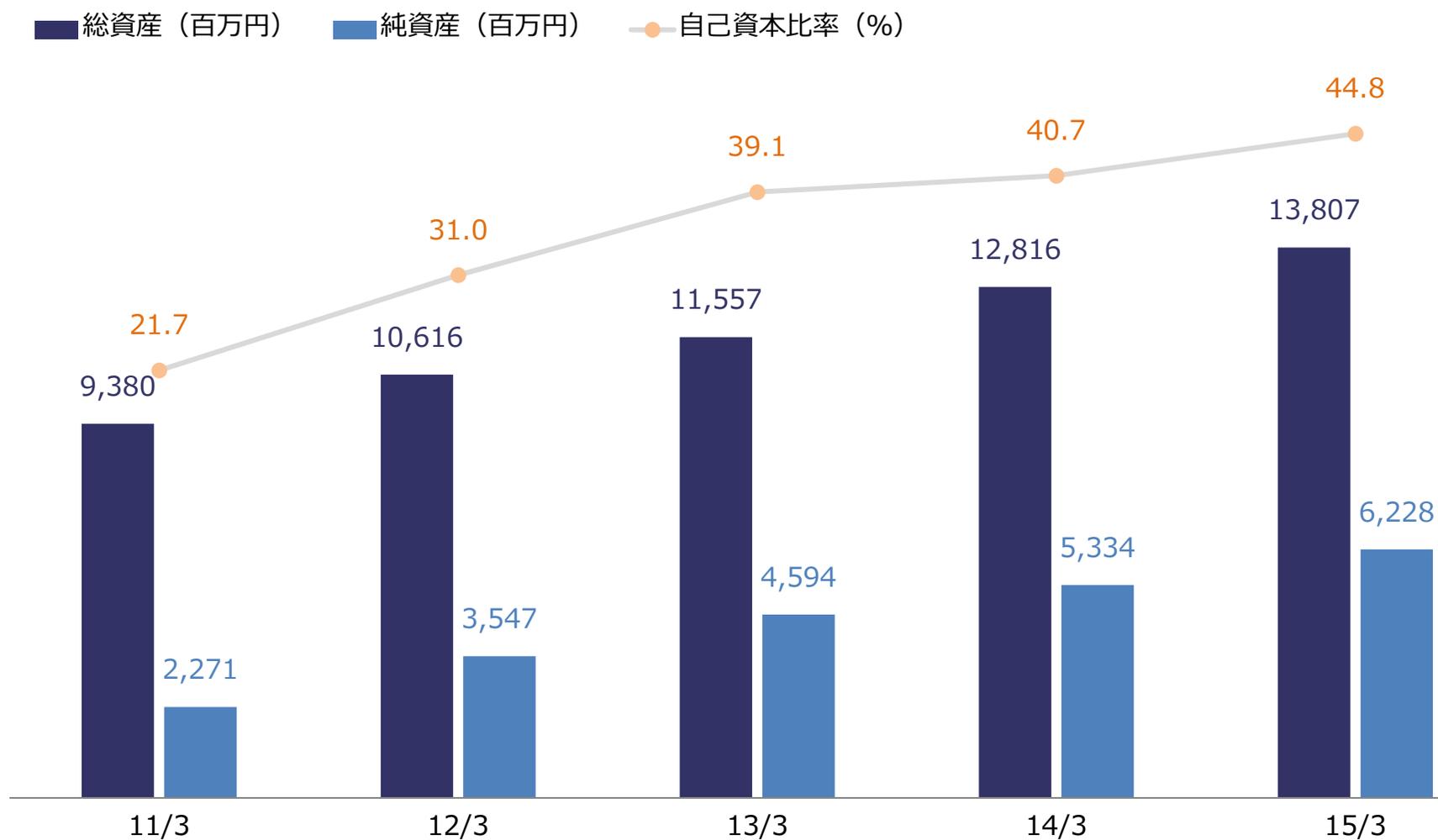


- 
1. 会社概要
  2. 2016年3月期第2四半期決算の概要
  3. 2016年3月期の見通し
  4. 今後の見通しと施策
  5. 参考資料

# 連結業績推移 (1)

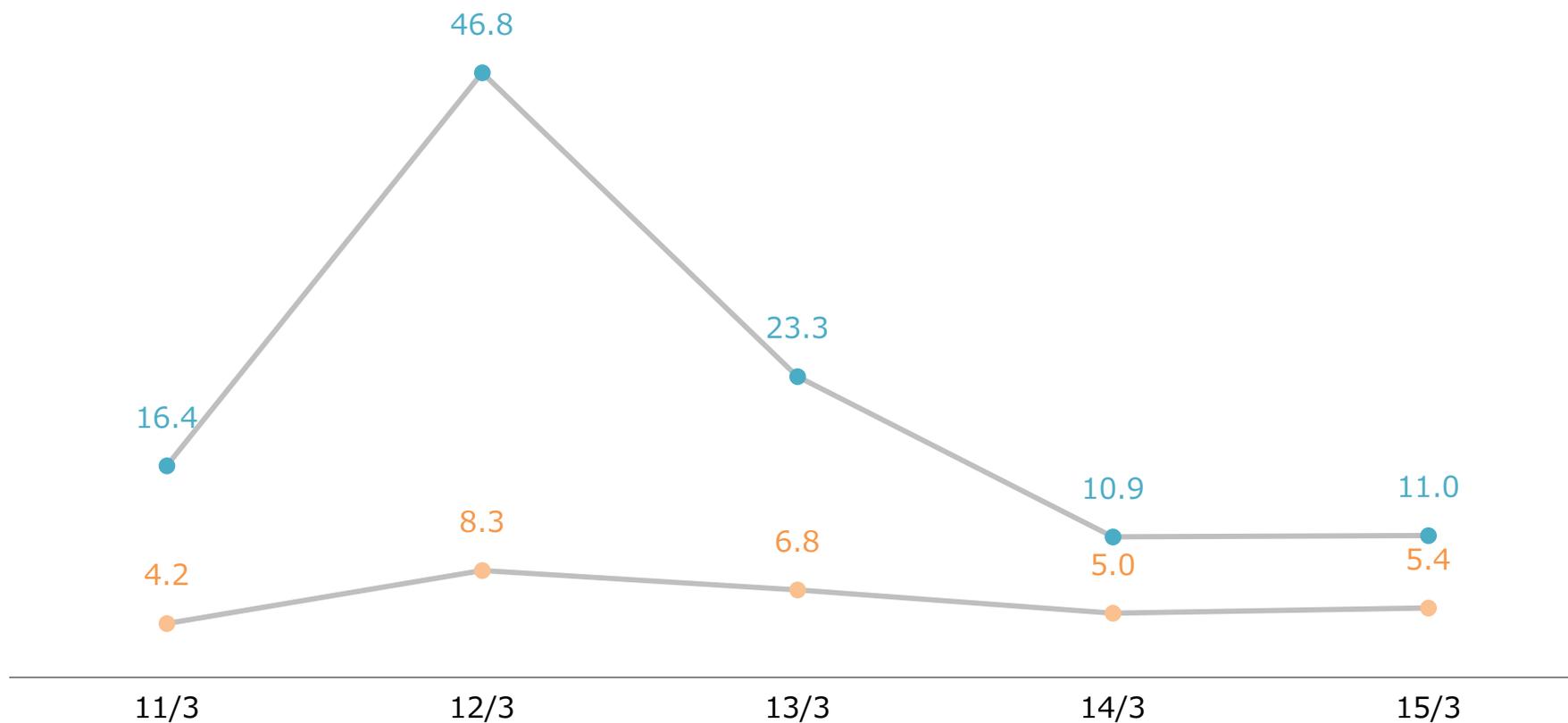


## 連結業績推移 (2)



# 連結業績推移 (3)

● ROE (自己資本当期純利益率)      ● ROA (総資産經常利益率)      (%)

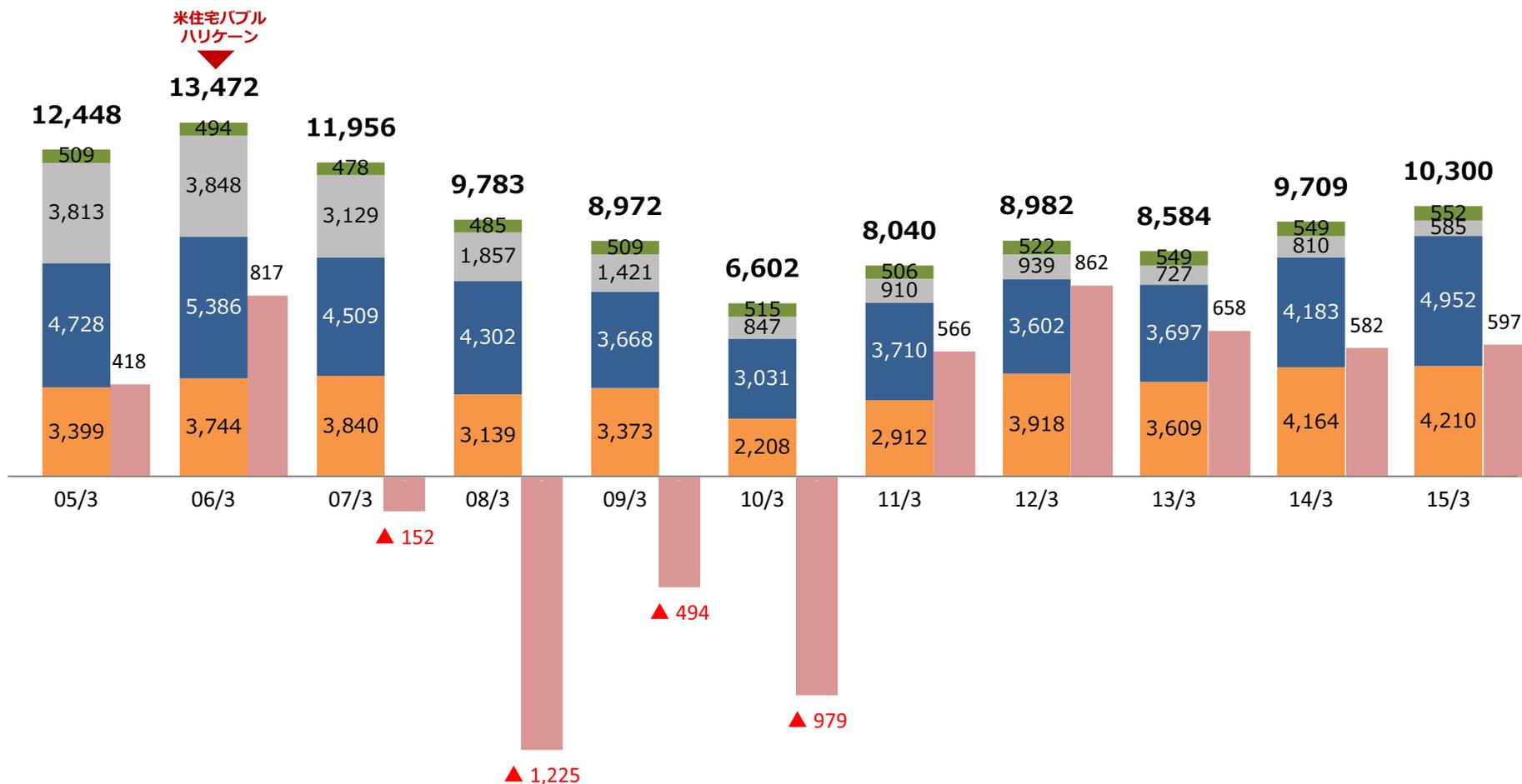


# セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

市場拡大が見込まれるガス機器事業に注力、筋肉質な事業構造へと変化

■ ガス機器事業 ■ 汎用機器事業 ■ 自動車機器事業 ■ 不動産賃貸事業 ■ 営業利益

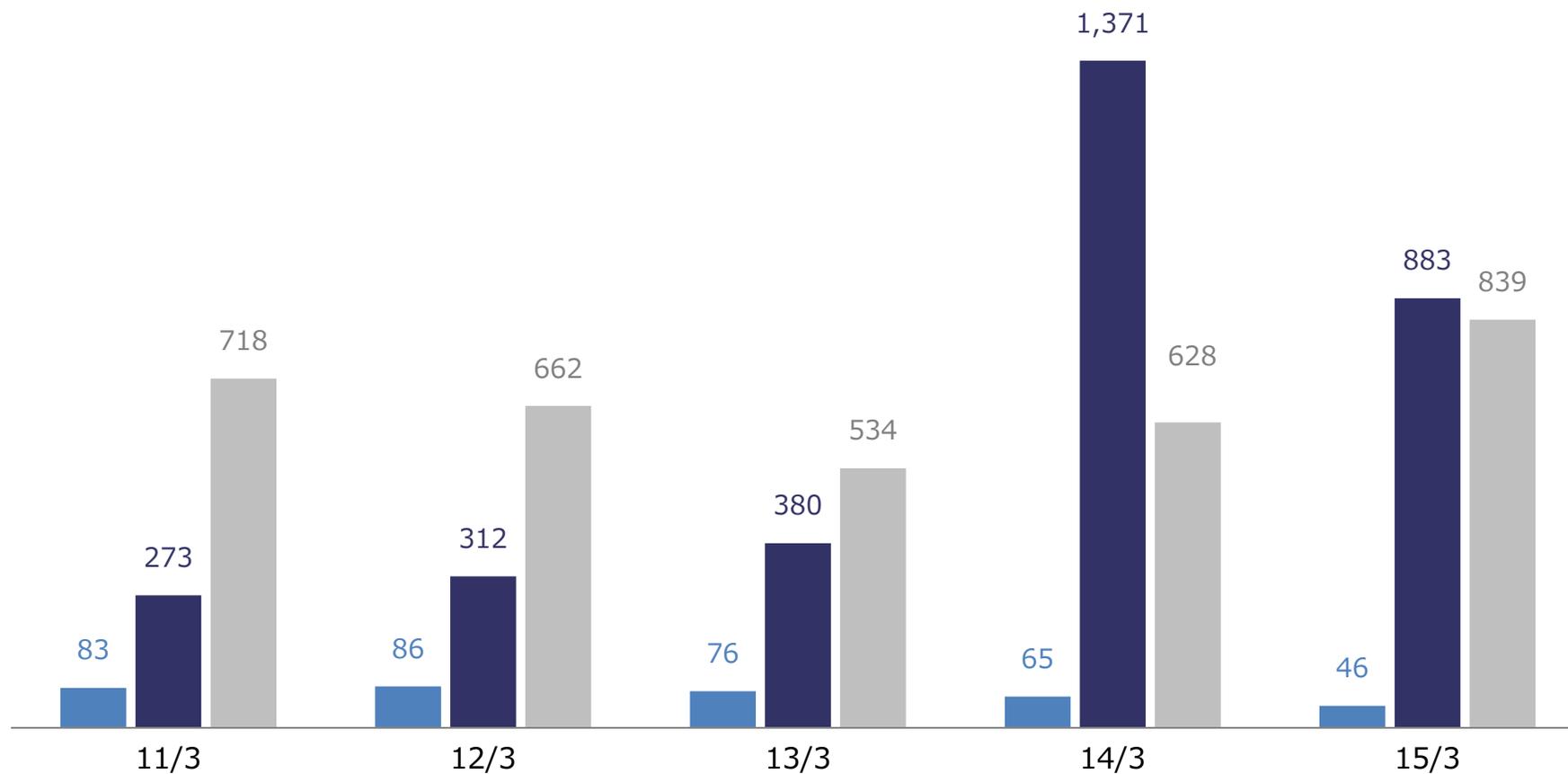
(百万円)



# 研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移

■ 研究開発費 ■ 設備投資額 ■ 減価償却費

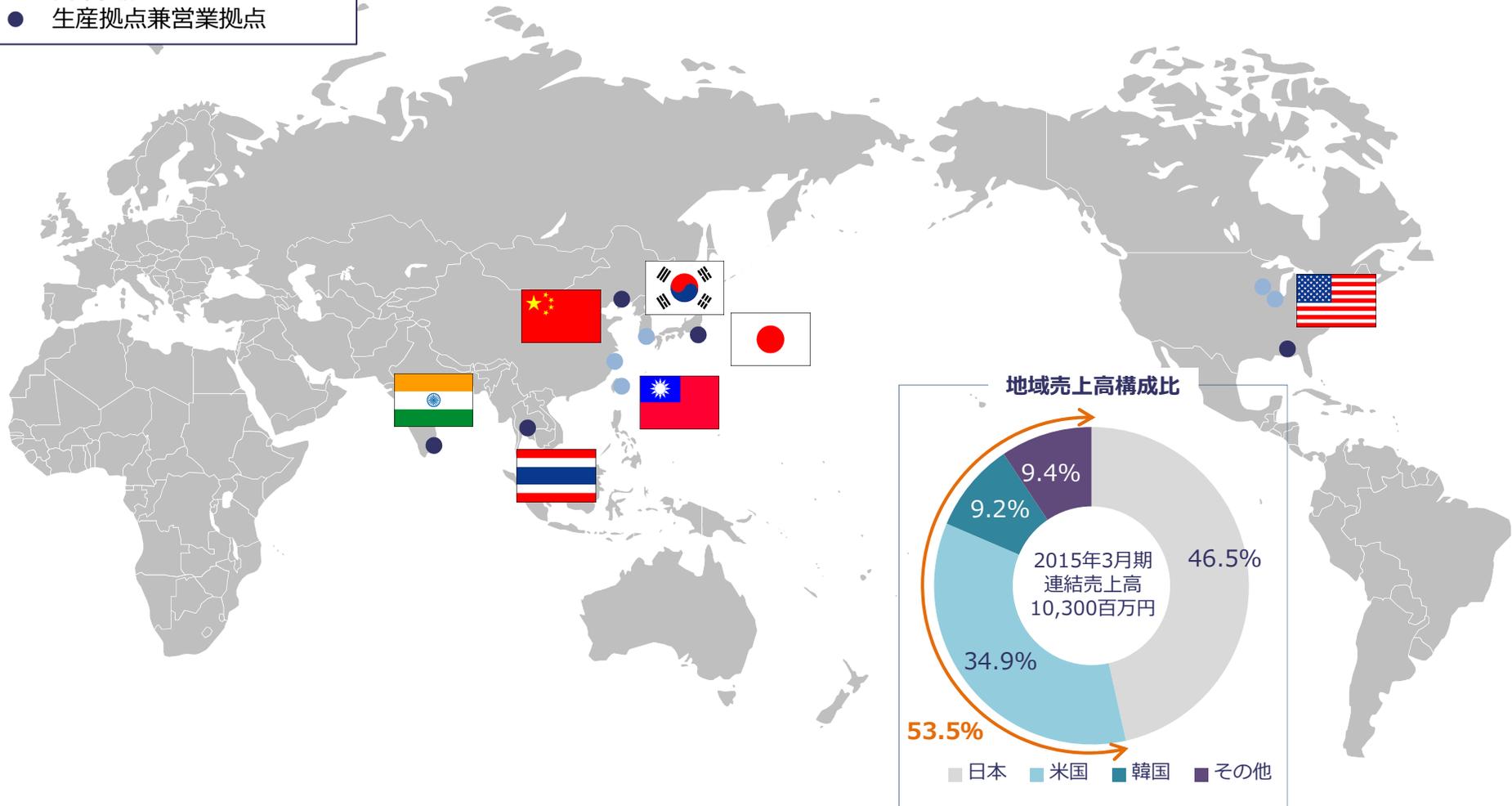
(百万円)



# グローバルネットワーク

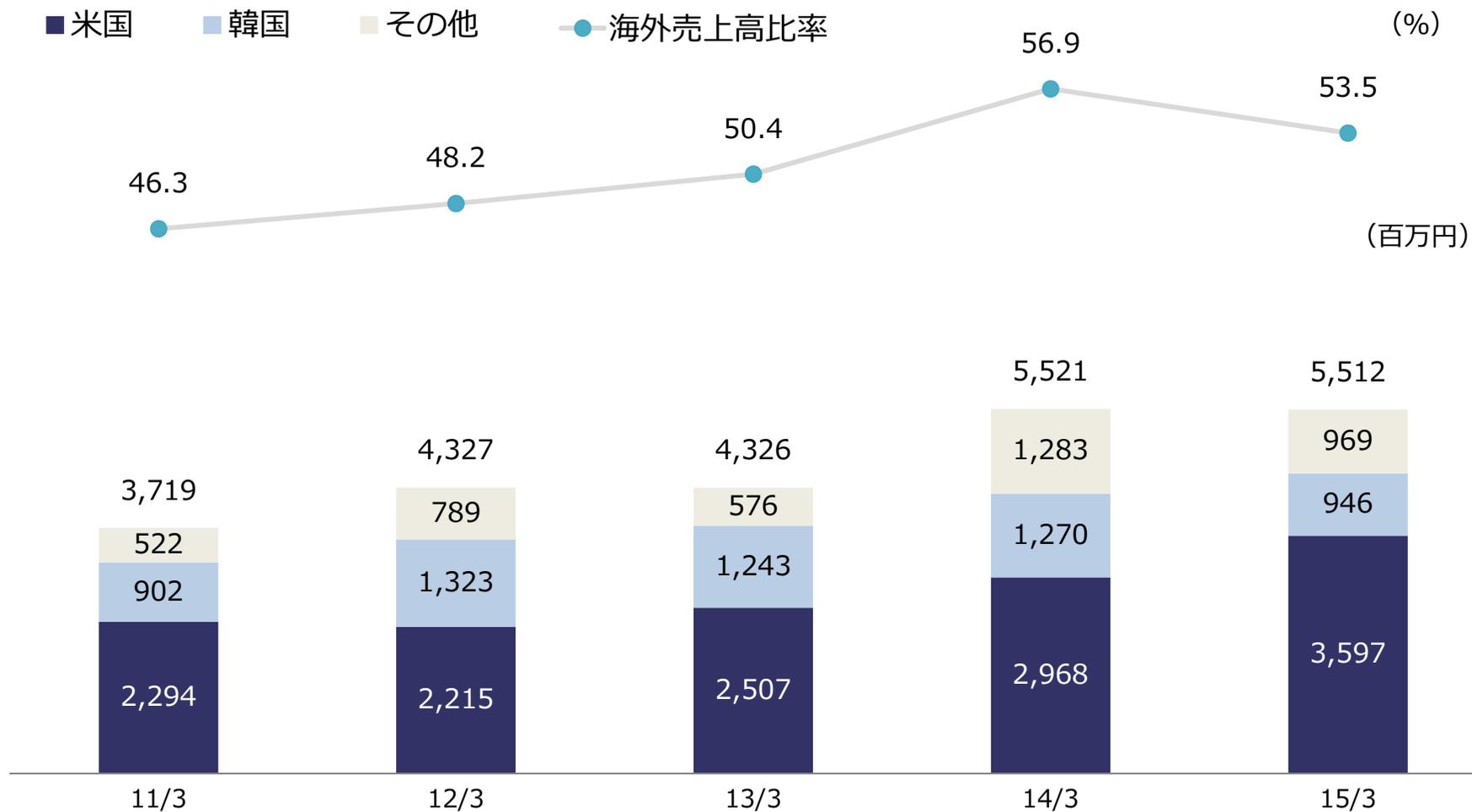
世界6カ国に拠点を設ける。海外売上高比率は53.5%（2015年3月期）

- 営業拠点
- 生産拠点兼営業拠点



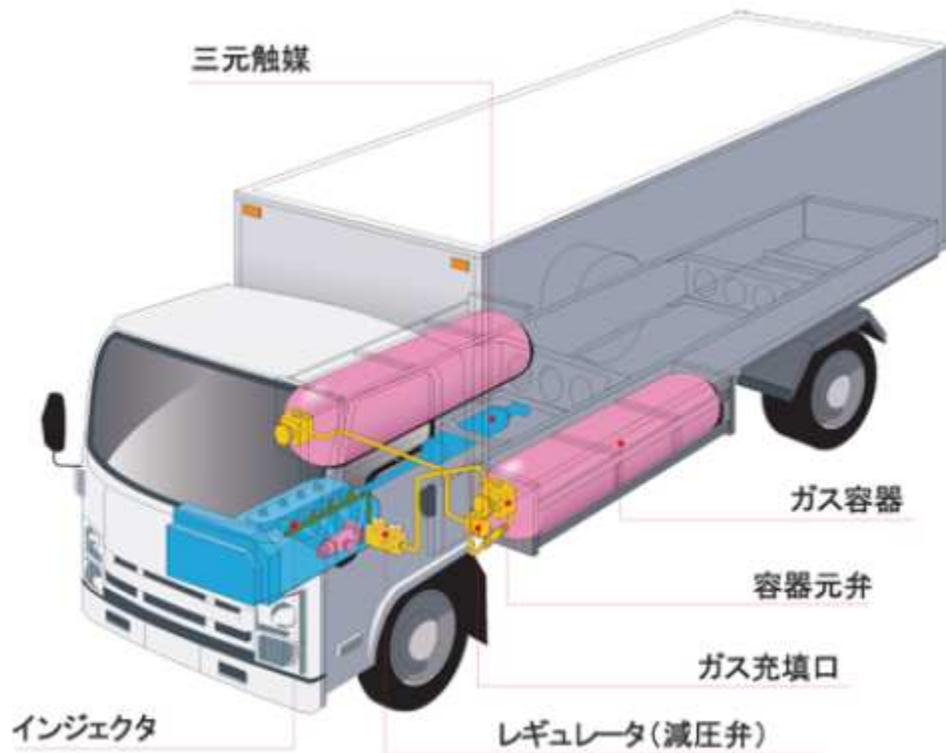
# 海外売上高推移

主要なマーケットは国内から海外へ



## (ご参考) 天然ガス自動車の構造と特徴

天然ガス自動車（CNG車）の構造（トラック）



出所：日本ガス協会

	利点	欠点
CNG/LNG車	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料費が割安</li> <li>環境負荷が小さい</li> <li>パワーが強い</li> <li>LNG車はCNG比で航続距離が長い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料充填施設が限られる</li> <li>車両価格がやや高め</li> </ul>
HV/EV車	<ul style="list-style-type: none"> <li>モーター駆動時は環境負荷が最も小さい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーに制限あり</li> <li>充電施設が限られる</li> </ul>
ディーゼル車	<ul style="list-style-type: none"> <li>給油場所は十分にある</li> <li>パワーが強い</li> <li>車両価格が安い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素酸化物などを排出</li> </ul>

CNG (Compressed Natural Gas) 車：

天然ガスを気体のまま、高圧 (20MPa) でガス容器に貯蔵する車両

LNG (Liquefied Natural Gas) 車：

天然ガスを液体状態 (-162℃) で、超低温容器に貯蔵する車両

## (ご参考) 当社を取り巻く環境

拡大する市場に的確に対応し、持続的成長を実現する

事業	種類	特徴
ガス機器事業	大型/トラックバス	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 市場は拡大傾向</li><li>■ OEM中心で高価格</li><li>■ 技術的要求水準が高く、参入障壁が高い</li></ul>
	中小型/乗用車	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 市場拡大が続くが、国、地域によって価格と種類がまちまち</li><li>■ 低価格品が主流</li><li>■ OEMも増えつつある</li></ul>
汎用機器事業	キャブレター	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 市場は緩やかに拡大</li><li>■ 米国中心のマーケット</li><li>■ 中国製品との競争が激化</li></ul>
	燃料噴射装置	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 今後、市場規模の拡大が見込まれる</li></ul>

## (ご参考) 日本国内でLNGトラック導入を促す動き

### 背景

- 地球環境への配慮
  - － CO<sub>2</sub>の排出量削減
  - － 大気汚染の原因物質（NO<sub>x</sub>やPXなど）の排出削減
- エネルギーリスクの分散
  - － エネルギー供給源の多様化（運輸部門の約98%が石油に依存）
  - － 調達先の分散（複数の国から輸入）
- シェールガスの生産拡大による可採年数の拡大・価格の安定化
  - － 2017年より米国から輸入開始予定

### 国の政策

- 総合物流施策大綱（2013-2017）2013年6月 国交省・経産省
  - － 「物流分野における主要なCO<sub>2</sub>排出源であるトラックをはじめ、船舶、鉄道等各輸送モードの省エネ化、低公害化、天然ガス等へのエネルギー転換を促進する」
- 国土強靱化政策大綱 2013年12月 国土強靱化推進本部（内閣官房国土強靱化推進室）
  - － 「エネルギーセキュリティの推進（CNG車両等の普及）（中略）を図る」

- 
- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
  - 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
  - また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp